

■（８６）コピーや「横を縦にする」は校則違反

通信社の記者が、パソコンに取り込んだ競合社の記事を元に、自分の記事を書いていた。だが、末尾に競合社のクレジットが残っていたためすぐに流用が発覚した。記者として許されない行為で、デスクや校閲などの目をくぐりぬけて配信されていたのも驚きだ。

「横を縦にする」。記事を書く際の戒めに使われる言い回しだ。会社や役所などが報道機関に出す発表文は通常、横書きだ。一方、ほとんどの新聞の書式は縦書き。そこから、独自の取材結果や判断を加えないで、発表文をそのまま記事に書くことを表現している。そんな手抜きする記者にはなるな、という意味を込めて使われる。そもそも、企業などは報道機関に広報すると同時にインターネット上に自ら発表する時代だ。「横を縦に」の記事があれば、発表文と見比べればすぐにわかる。そもそも、そんなコピーや「横縦」の記事が掲載された新聞に、お金を払ってくれる読者がいるはずがない。

子どももネット上の文章や写真を次々とコピーすれば簡単に論文を書きあげられる。その誘惑が多い証拠に、それを見破るシステムを開発した大学もあった。活躍中かな
(山)